

## 中 出 さん (中山町佐礼谷)

## 「人が輝けば、村が輝き 町が輝く|

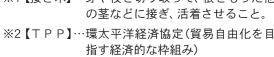
作った栗です。 ○佐礼谷ロマン…生け花用栗 ○ハニーマロン…糖度28% ○金吉栗…糖度3・3% を見つけ、その芽の接ぎ木(※ で、偶然に実生種や枝変わり 栽培しました。栽培するなか この三つの聞き慣れない栗 . 中岡さん自らが研究して 「インターネットを検索し おいしいといわれる栗を

種を授かりました」

ています。

1)を繰り返し、やっと新品 品種も作りました。

※1【接ぎ木】…芽や枝を切り取って、根をもった他 の茎などに接ぎ、活着させること。 指す経済的な枠組み)



進しました。その想いがあり、 は、栗によるまちづくりを推 年に亀井氏(当時の中山町長) になりました。また、平成6 げで、快適で自慢できる地域 し、インフラ整備をしたおか 氏らが佐礼谷振興会を発足 退に危機感を持った亀井正哲 谷村との合併で、佐礼谷の衰 ろうと思いました」 天津甘栗よりおいしい栗を作 昭和3年、中山町と佐礼

どをつくることに成功しまし 栗ができると、その芽の接ぎ 導班の指導を受けながら、栗 付ける「佐礼谷ロマン」という なく観賞用にも、ということ た。また、栗を食べるだけで 業を十数年繰り返し、「金吉栗 木や選抜など、根気のいる作 の研究を始めました。優れた た中岡さんは、県伊予農業指 (中岡さんが付けた名前)]な 栗で佐礼谷の活性化を考え 一つの枝に連続して実を

域にしようと、佐礼谷振興会 なが住みやすくなるような地 住まれ育った佐礼谷を、みん 見守る中岡さんは、現在62歳。 に参加しました。 毎日畑に行き、栗の成長を

いしい・安全・安心、さらにオ とは、化学肥料を使わず、 2)の時代に生き残る農産品 協議を開始することにも危機 で取り引きしています」 にブランド商品として、高値 栽培野菜宅配会社や生花市場 導をいただいて、東京の有機 せん。県伊予農業指導班の指 ンリーワンでなくてはなりま えです。 やがて来るTPP(※ 必ず売れるというのが私の考 の参加に向けた関係国との 中岡さんは、日本がTPP

と、日本の栗は勝てない。 まれ、就農する若年者が現れ、 できれば、そこには雇用が生 ない。市場競争に勝つことが 優れた栗を作らなければなら き残るためには、 感を募らせています。 地域が元気になると考えてい たくさんの栗が輸入される 貿易自由化で、世界から おいしく 生

ます」 のおかげで授かった栗が、 日も畑に行き、栗と会話をし んでもらえることを願い、 礼谷振興会や次世代の方に喜 中岡さんは、多くの関係者

いしいモノを作れ

ば